

公開シンポジウム

ポスト68年の 思想と政治

——〈階級闘争〉から〈社会運動〉へ？

長崎 浩

68年は「若者たちの叛乱」か

絳 秀実

村上一郎と市民社会派マルクス主義

廣瀬 純

マルクス主義政治哲学のために
アントニオ・ネグリとその同時代人

ギャヴィン・ウォーカー

ポスト68年の状況：構造から政治へ

司会：長原 豊 市田良彦

2014. 2.1 (土) 13:00-18:00

京都大学人文科学研究所本館

共通1講義室

主催 | 京都大学人文科学研究所
同研究所共同研究班「ヨーロッパ現代思想と政治」

お問合せ | 京都大学人文科学研究所 総務掛
Tel. 075-753-6902 <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>
メールアドレス：z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp



使用言語：日本語 無料・予約不要



ポスト68年の思想と政治 —〈階級闘争〉から〈社会運動〉へ？

「68年」は「政治」を議会から解放した。それとともに、議会外の「政治」は、〈階級闘争〉から様々な〈社会運動〉に脱皮した…日本でも欧米でもこうしたストーリーがくりかえし語られてきました。このストーリーはいったいどこまで「正しい」のでしょうか。「経済」を包括的に左右する力はもはや議会政治にしかないのか。マルクス主義を「のりこえた」はずの〈社会運動〉は、「経済」とどうかかわりうるのか。新しいタイプの貧困が日々厳しさを増すなか、マルクス主義が再生していないとすると、いったいなにが問題なのか。ポスト68年の変化の背景にある産業資本主義の衰退やそれにともなる労働の変容は、そこにどんな影を落としているのか。『ヨーロッパ現代思想と政治』研究班では、「政治」と「経済」、「政治」と「思想」の関係を捉え直すために、こうした問いを四人の講演者に投げかけてみました。その応答に耳を傾け、ともに議論することを求める多くの参加者のご来場をお待ちしています。

長崎 浩 (ながさきひろし)

◎1937年生。評論家。

主な著作:

『叛乱の60年代』(論創社、2010)、『共同体の救済と病理』(作品社、2011)、『革命の哲学』(作品社、2012)



桂 秀実 (すがひでみ)

◎1949年生。文芸評論家、近畿大学教員。

主な著作:

『1968年』(ちくま新書、2006年)、『吉本隆明の時代』(作品社、2008年)、『反原発の思想史』(筑摩叢書、2012年)



廣瀬 純 (ひろせじゆん)

◎1971年生。龍谷大学教員(政治哲学、映画批評)。

主な著作:

『シネキャピタル』(洛北出版、2009)、『蜂起とともに愛がはじまる』(河出書房新社、2012)、『絶望論』(月曜社、2013)



ギャヴィン・ウォーカー

(Gavin Walker)

◎1979年生。カナダ・マギル大学教員(社会思想史)。

主な著作:

「現代資本主義における「民族問題」の回帰」『思想』1059号(岩波書店、2012年)、「政治経済(学)批判と国家形態」『情況』思想理論編第2号(情況出版、2013年)



[司会]

長原 豊 (ながはらゆたか)

◎1952年生。法政大学教員(経済学)。

主な著作:

『われら瑕疵ある者たち 反「資本」論のために』(青土社、2008)、『政治経済学への政治哲学的復権』(共編著、法政大学出版局、2011)

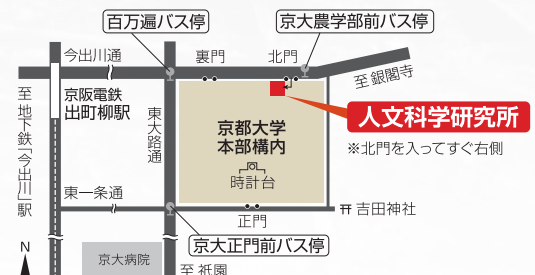
市田良彦 (いちだよしひこ)

◎1957年生。神戸大学教員(社会思想史)。

主な著作:

『アルチュセール ある連結の哲学』(平凡社、2010)、『革命論』(平凡社新書、2012)

長原・市田・小泉義之・王寺賢太著『債務共和国の終焉:わたしたちはいつから奴隷になったのか』(河出書房新社、2013)



- 市バス 17、203系統「京大農学部前」下車徒歩1分/31、201、206系統「百万遍」下車東へ徒歩5分
- 京阪電車「出町柳」下車東へ徒歩15分 京都大学 北門入ってすぐ右
- ※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。